

216 / 393

郵政事業庁総括専門官 濱 俊之

この数字は今年の正月に私がいただいた年賀状のうち、宛名がパソコンで印字されていた割合である。率にすると55%になる。仕事関係の方が多いのでおそらく平均より多少高めであろうが、半分を超えているとは思わなかったので少し驚いてしまった。これ以前の年賀状を調べてみると平成11年が36%、平成12年が43%、平成13年が49%と毎年着実にパソコンによる宛名書きが増えていることがわかった。

パソコンによる宛名の印字は区分機のOCRによる文字の読み取りには有利である。私が7桁の新郵便番号制を検討していた時は、パソコンによる宛名書きが増えてくると思っていたし、パソコンの宛名書きソフトを使うと新郵便番号を入力すれば住所の漢字部分に簡単に変換できるようになると思っていたがそのとおりになっている。今のソフトは大口事業所の個別番号を入れると、住所と会社名まで自動的に入力できるので重宝している。

もうひとつ4 / 393という数字を紹介しておこう。この数字は今年いただいた年賀状のうち、カスタマバーコードが印字されていた割合である。「カスタマバーコード」と聞いてすぐあれかとおわかりいただけるのは郵便関係者であろう。しかし、ほとんどの人は毎日といっていいほどカスタマバーコードを眼にしておられるはずである。DMや請求書などの宛名の近くに印字されている

バーコードで、長短のバーを67本組み合わせて新郵便番号と住所情報を表わしている。郵便物を大量に差し出す場合にこれを付けると料金が割引かれるので現在では多くの企業が利用している。

私は新郵便番号制が実施される前の平成9年から自分の出す郵便物にカスタマバーコードを付けている。当時の宛名書きソフトは7桁対応になっておらず、当然カスタマバーコードを印字することもできないので自分でカスタマバーコードを作るのは大変面倒だった。今では宛名書きソフトの機能が上がって、パソコンが自動的にカスタマバーコードを付けてくれるようになった（初期設定には入っていないのでその設定が必要であるが）。もちろん年賀状にカスタマバーコードを付けても割引はないが（切手を貼った郵便物や官製葉書は割引の対象外）、年賀の処理を少しでも楽にしようとカスタマバーコードを付けているのである。

実はカスタマバーコードを付けた年賀状を出すことにはもう一つ意図があって、これを見た郵便事業関係者がカスタマバーコードを付けるようになってくれるのではないかと（もちろんボランティアで）と期待しているのである。しかし、新郵便番号制が平成10年2月にスタートしてから4回目の年賀になるのに同調してくれる人が増えないのは残念なことである。

ちなみにカスタマバーコードの仕様を決めるための研究は郵政研究所が行ったのである。